

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108076		
法人名	社会福祉法人 桜丘会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	秋田市下北手梨平字登館8番地		
自己評価作成日	令和6年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和6年12月4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別ケア(個々を知り、個々にあった個別的な関り)に力を入れている。</li> <li>・定期受診は近況を的確に伝えることができるように職員が対応している。また、できるだけ薬物に頼らない支援を目指している。</li> <li>・食事は季節のものを提供できるよう、またご希望に応えられるように職員が食材の買い出しに行き調理している。</li> <li>・希望者のみではあるが学習療法を取り組んでいる。</li> <li>・医療連携体制(併設老健看護師が24時間対応)が整備されている。</li> <li>・ご家族と密に連絡を取り、ご利用者のケアなど都度話し合い、確認しながら支えている。</li> </ul>
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の普通の暮らしを守るため、生活のリズムを乱すことなく過ごせるよう利用者本位のケアを大切にしています。ユニット間で職員が交代で勤務に入ることによって連携が図られて利用者とも馴染み、職員間の話し合いを密にして現状把握に努めながら利用者の「今」に柔軟に対応できるよう取り組んでいます。買い物をしたいという利用者の意欲の向上を受け止めて個別の要望に応える等、外出の機会を多くつくり、利用者がホールで過ごしている時には、他の利用者や職員と語り合いながら安心して生活している様子がみられます。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿ってケアを考え、実践に努めている。	理念を基に年間目標を設定し、利用者の変化に対応できるよう職員間の連携を密にして日々の支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はコロナ禍以降減ったままとなっている。	地域の掃除等に参加することを控えており、利用者もコロナ禍前のように地域の方々と幅広く交流ができない状況が続いていますが、買い物は地元のスーパーや衣料品店を利用しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症に対する理解や支援方法をお伝えする機会はあるものの地域貢献とまでは至っていない。コロナ禍以降、地域の方へ向けた認知症講座を開催機会も減っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で頂いたご意見は積極的に取り入れている。他事業所のお話や地域行事などの情報も頂いている。	ホームの現状を報告しています。包括、地域の方々が参加していますが、記録からは双方向的な意見交換がみられず、会議が運営に活かされていません。	会議開催の意義を再考し、参加者それぞれの立場から意見をもらえるよう進行の仕方を工夫し、会議で得られる意見を運営に活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	秋田市主催の研修へ参加したり、事業所へ届いたアンケートなどは積極的に回答している。	更新申請の手続き、不明点の相談等で電話や窓口に出向いて協力関係を築いています。研修の案内もあり、行政とは連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に身体拘束・虐待の防止に取り組んでおり、毎月のカンファレンス等で周知・意識づけを図っている。	日常的に疑問点等を話し合い、不適切な支援に繋がらないよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用しているご利用者がおり、関係者と連絡体系など作り上げている最中である。そのため職員への周知までは至っていない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約など認識の相違がないよう丁寧に説明するよう心掛けている。その後もご家族への連絡・報告はこまめに入れている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	苦情窓口の他、直接的にご意見を頂くことも多く、接遇面や感染期の面会についてなど、頂いたご意見を基に改善・調整行っている。	入居時に意見等の申し出先を説明すると共に電話や来訪時に話してもらえるように伝えています。家族との会話の内容を記録に残し、苦情等には改善を図る等、真摯に対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	日常的に各職員の意見や提案を聞くように努めている。できることに関しては実務に反映させている。	職員で構成される委員会が活発に活動し、日々の支援に活かされています。排泄の自立に向けてトイレ内の環境を整備したり、業務改善に繋げるための話し合いをする等、職員の意見、提案が運営に反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡会の活動に積極的に参加させていただき、他事業所との情報交換や交流が図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談の中でできるだけ多く聞き出すように努めている。ご本人のペースに合わせ、安心感を持っていただけるように努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時からご家族が困っていることやご希望などを伺い、ご心配の解消・ご意向に沿ったサービスの提案を心掛けている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ていることは継続的に行っていただき、人生の先輩として職員に様々なことを教えていただきながら、一緒に生活をする者としての関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話、メールなどでご本人の普段の暮らしぶりを伝えたり、判断に困ることなどは随時ご家族に確認させていただくなど、ご家族と連携をとりながら一緒に支えている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	時々ご自宅を見に行ったり、ご家族へ電話をかけたりしている。美容院や病院など、馴染みの場所がある方へは継続的にそちらへ通うことができるように支援している。	病院や美容院で家族と待ち合せたり、近くの衣料品店をよく利用している方もいます。移動美容院の方や看護大生とは新しい馴染みの関係になっています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立した状況や他者トラブルが起こらないように仲介に入りながら支援している。行事やレクレーションを通して交流の場面を設けつつも、無理強いはずにご本人のペースに合わせ対応している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、隣接の老人保健施設へ移られた方の場合には時々顔だしをさせていただくことがある。必要時には情報提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心に、日々の会話や生活歴などの情報と照らし合わせながらご本人の思いを汲み取るように努めている。	利用者との会話等、日々の支援から思いを汲み取るようにしています。家族の意見や生活歴等を参考にし、ホームの暮らしに活かせることを検討しながら本人の立場になって実践しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴や馴染みの暮らし方などの情報を把握に努めた上で支援を行っている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ケアプランの見直しなど、カンファレンスで意見を出し合い検討し、現状に合った介護計画を作成している。	カンファレンスで意見を出し合い、介護計画の作成には全職員で取り組んでいます。	記録の仕方を見直している途上がありますが、介護計画に沿った記録をするための様式の工夫を期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りノート、口頭など情報共有は常に行い、実践している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院や病院など継続して関わりを持てるよう支援しながら、ご本人に馴染みある場所へのドライブなど心豊かに生活していただけるように努めている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向に沿って往診を利用するか通院を継続するか選んでいただいている。また、薬局に関しては基本一本化させていただき、随時細やかな相談も受けていただいている。	入居前と同じ医院で医療を受けている方もおり、利用者それぞれの希望に応じて支援しています。医療機関で家族と落ち合うこともありますが、通院対応は職員が行っています。歯科、薬局の協力も得られ、適切に支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師はおらず、急変時や対応に困る時には併設老健の看護師に連絡をしている。また、往診で来てくださる遠山医院の看護師またはドクターへも電話等でご相談させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	認知症状の悪化とADL低下を防ぐために、入院の際には治療が終わり次第に早々に受け入れたい旨依頼している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前から、医療職が在籍しておらず医療面には弱いこと、ハード面からも重度化された時にはかえって身体的に負担を掛けてしまうことになることをご説明している。状態が変わってきている場合には都度状況報告をすると同時に、ご相談させていただいている。	ホームでの生活が困難になった場合は、本人の状態に合わせて法人内で移動できるよう支援しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルでの確認となっており、実践的な訓練は行っていないので、今度は実践訓練を行っていききたい。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的にご利用者も参加した避難訓練を行っている。避難場所が併設老健となるため地域との協力体制までは図れていない。	土砂災害を想定した訓練も実施していますが、外に通じる出入口が玄関だけということもあって画一的な訓練になっており、職員の不安が解消されていません。	建物の構造及び立地環境で避難することを考えた場合、訓練方法を見直すと共に運営推進会議も活用し、安全に避難できる訓練の実践を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員を中心とし、適切な声掛けや対応を意識しながら対応している。	配慮した対応をすることで利用者に気を遣われることもありますが、声かけや普段の言葉遣い、職員同士の会話にも気をつけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方はご自身で、難しい方も声掛けをしながらご本人と一緒に衣類を選んでいる。また定期的に美容院へ通ったり、時々洋服など購入しに出掛けている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれのできることを活かし、食材のカットや盛り付け、片付けなど一緒に行っている。好みを把握し、好みのメニューを取り入れられている。	畑の野菜を一緒に収穫して皆で調理法を考え、おやつ作りも一緒に行い、敬老会等の行事では特別メニューを提供する等、楽しく食事ができる支援が行われています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の把握に努め、必要時には補食を提供している。また摂取状態に応じて食形態を工夫するなど対応している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。自立の方に関して、声掛けや必要時には見守りを行っているが口腔内の観察は出来ていない。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し声掛け・誘導を行っている。年齢的にも自立に向けた支援は難しくなっているが、トイレでの排泄は維持できるよう努めている。	トイレ内の環境を整備してパッド交換が自分で行えるようにしたり、リハパンから布パンツに移行できた方もいて、利用者の状況を話し合いながら改善に繋げていけるよう取り組んでいます。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分強化や乳製品など飲食物の工夫、その他下剤の使用などで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間やタイミングに関しては業務の都合上こちらからのお誘いになっている。その中で、できる限りご本人の意向に沿って入浴していただいている。	週2回を目途に入浴支援しています。拒否する方もいますが、本人の意向に添って対応しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれご本人のタイミングで休んでいただいている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員それぞれが薬の理解に努めている。かかりつけ医、かかりつけ薬局と連携を図っており、随時状態を報告しては指示をいただいている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならないようご本人が好むお手伝いを日々の役割として行っていたり、行事やレクなど楽しみの場を設け、買い物やドライブなど個別の楽しみ方で気分転換を図っていただいているが、十分とは言えない。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以降、外出においても感染の可能性が低い場所であったりマスクを外さないなど制限をかけながらの外出となっている。天候に合わせてドライブに出掛けたり買い物に行くなど、なるべく外出支援を増やしている。	普段は外出することの少ない車椅子の方もドライブに出かけて外の空気を感じ取れるよう支援しており、個別の要望に応えながら外に出る機会を多く設けています。家族の協力も得られています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族からの預り金で職員が支払い対応している。数名の方はお金を所持していらっしゃるものの、現状使うことが難しくなっている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾をしており、リビングからは中庭が見えるため季節を感じていただける。安全で清潔な環境整備に努めているものの、掃除が行き届かないことがある。	四季を通じて中庭の樹々や花を楽しむことができます。トイレが多く、広い廊下と共に安心感のある造りとなっており、小上がりの畳スペースで横になる方もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの好みや関係性に合わせて座席の配慮やソファの配置など工夫を重ねている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたもの、思い入れのあるものを持ち込んでいただいております、ご自宅に近い環境づくりを目指しています。さらにご家族の写真など飾り、安心していただいております。	入居時に家族とも相談しながら環境を整え、安心して生活できるよう支援しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ラベリングや表札等で見分かりやすいように工夫をしている。また職員は促しや待つ支援を心掛けている。		